

スマホを置いて、顔を見つめて

国富町立本庄中学校 2年 なか中 やま山 この心 み桜

「あと5分だけ」そう思って、部屋でスマホ画面をスクロールしていたら、いつのまにか1時間たっていた。このような経験は、自分だけではなく、周りの友達にもいるはずだ。今の私たちは、生まれたときからインターネットが身近にある、「情報化社会」を生きている。気になることは、検索すれば一瞬で分かるし、ショート動画やSNSを見ていれば退屈することはない。学校の授業でもタブレットを使うことが当たり前になって、とても便利で楽しいと思う。けれど、最近私は、この便利すぎる社会に対して少し息苦しさを感じることもある。

ある休日に友達の家を集まり、みんなで過ごしていたとき、ふと周りを見てみると、みんな自分のスマホを取り出して、動画を見せ合ったり、それぞれ別の動画を見て無言になっていたりする時間があつた。その光景を少し離れて見たときに、「私たちは本当に人と繋がっているのだろうか」と不思議な気持ちになった。せっかく同じ部屋に集まって、すぐ近くに座っているのに、視線は手元にある小さな画面に釘付けになっていた。ネットの向こう側にいる誰かは、画面の中の情報と必死に繋がろうとしているのに、目の前にいる友達の顔はちゃんと見ずに、果たして繋がっているといえるのだろうか。

情報化社会の怖さはそれだけではない。夜、家でメッセージアプリのタイムラインを見ていると、時々、誰かに対するきつい言葉や悪口が流れてくる。面と向かっては絶対に言えないような言葉がネットの中では平気に飛び交っている。以前、私も友達とのメッセージのやりとりで少しそっけない返信をしてしまい、相手を怒らせてしまったことがある。文字だけだと感情が伝わらず、お互いに誤解が生まれてしまったのだ。文字の後ろにある相手の気持ちを想像することは、スマホ画面越しだと、思った以上に難しい。ボタン1つで簡単に言葉を発信できるからこそ、私たちは考えることをサボってしまい、誰かを傷つける刃を簡単に振り回してしまうのではないだろうか。

ネットの世界は、自分が見たいものや自分が興味のある情報ばかりを自動で集めて見せてくれる。それは心地が良いけれど、一歩間違えると、自分の考え方が正しくて、それ以外の意見はすべて間違っていると思い込んでしまう危険もある。私たちは今、情報の波に溺れそうになっている。だからこそ、これからの情報化社会を生きるために大切なのは、スマホを操作する「指先」ではなく、一度画面から目を離して考える「自分の頭」と相手を思いやる「心」だと思う。便利さをすべて捨てることはできないし、その必要も無い。情報を手に入れたり、遠くの人と繋がったりできることは素晴らしいことだと思う。要は、使い方次第なのだ。

私はスマホに振り回される側ではなく、スマホを上手に使いこなす側になりたい。そのためにも、まず家での「あと5分」という誘惑に勝って、スマホを置く時間を増やす。そして、学校や家で、目の前にいる家族や友達の目をしっかり見て、言葉を交わす時間をつくる。このような繋がる努力を何よりも大切にしていきたい。